

令和7年度 山口県立大学 国際文化学部 国際文化学科  
外国人留学生選抜「小論文」問題用紙（持ち帰り）

以下の文章を読み、問1、問2に答えなさい。

情報社会、あるいは情報化社会と言ってもいいんですが、そこで懸命に生きていこうとすると、まず出てくる悲鳴があります。つまり、あまりにも多くの情報があって、そのなかのどれが本当なのか、何を選んだらいいのか分からない。今、流行っているものの情報に熱心であればあるほど、世間で流行っていることを知らないと自分が遅れるんじゃないか、という焦りみたいなものが人間を突き動かすのが情報化社会の特徴です。そういう社会に適応しようとするれば、この①情報の洪水のなかで溺れてしまう人間が出てきます。

私は情報化社会と情報社会をごっちゃに使っていますが、今だんだん「化」が抜け落ちてきているということなんです。ではどうすれば情報社会のなかで溺れ死にしないですか。

現代社会において、我々が摂取しているもののなかには、情報 **information** がとても多い。これを「I」とします。で、次が知識 **knowledge** 「K」です。そして、本当の意味での知恵、つまり、人間の賢さというか、判断する力。これを **wisdom** と言いますから「W」とします。I、K、Wが形作る三角形。これが、仮に私が名付けた②「知の三角形」です。

情報に溺れそうだという人たちは、この「I」の摂取量ばかりがやたらと多くて、それを判断するための知識「K」の面積が少ない。さらに最終判断のための「W」の面積は圧倒的に狭い。

自分で最終的に判断して、自分でこうだなと考えるメディアリテラシーという学問が最近盛んに言われていますが、これには「W」の領域が大いに関係しているんです。

ネットのなかから情報を得ても、その情報が本当か嘘かを判断しなければならない。情報社会のなかで生きるには、「W」の領域を増やさなければなりません、その努力をあまりしないで「I」の摂取ばかりをやっているから、この三角形の形が歪んで、足場が不安定になってグラグラする。だから私たちがやるべきなのは、「知の三角形」の形を正常に戻すことです。

三角形の上方の「I」のスペースを適度にして、真ん中の知識量「K」を増やし、さらに底辺の「W」、判断する能力のスペースを広げていく。こうすれば、この三角形は座りが良くなって安定するわけです。

問題は、具体的にそれをどうやるのか。いきなり人間が賢くなって、「I」の領域から一気に「W」の面積が増えることはありません。だとすれば、この真ん中の領域「K」、つまり知識というものが非常に大事になってくる。

例えば今世界で起きている非常に険しい事態の一つは、言うまでもなくパレスチナ問題です。イスラム教世界とキリスト教世界、それにユダヤ教世界が真正面からぶつかり合っている。

みなさん、中東世界の地図を明確に頭のなかで描けますか？ 多分、きちんと知っている人は、あまり多くはいないはずです。ジャーナリストでさえ、きちんと地図を描ける人は少ない。

レバノンがどこにあって、パレスチナとはどこを指すのか、シリアの位置とイスラエルとの関係は……と、非常にぼうっとしていて分かりにくい。

分からない世界で暴動が起きたというニュースが入ってきても、本当に何が問題なのかを正確に理解することは難しい。そうであれば、中東で毎日起きているニュースをしばらくは置いて、イスラム世界とは何か、中東とはどういう地域なのか、それをじっくり勉強する、あるいはその知識を貯える、ということのほうがバランスの取れた理解へ向かえるということは、容易に想像できると思います。

つまり、メディアリテラシーの問題もそうなんですが、自分に知識がないために、マスメディアが伝えるもののほうへ、一方的に誘導されていってしまう、ということが起こりがちなんです。

(出典：筑紫哲也『若き友人たちへ』株式会社 集英社、2009年、196-198頁を一部改編。)

問1 下線部①について、情報の洪水のなかで溺れてしまうことの意味とその原因を、本文の内容を踏まえて200字以内で自分の言葉で説明しなさい。

問2 下線部②について、著者の述べる「知の三角形」の考え方をを用いると、異文化に対する理解はどのように深めることが望ましいと考えますか。本文の内容を踏まえて、600字以内で述べなさい。

令和7年度 山口県立大学 国際文化学部 国際文化学科  
外国人留学生選抜「小論文」問題

出題意図・採点基準

【出典】

筑紫哲也『若き友人たちへ』集英社、2009年、196・198頁。

【出題意図】

出題文は、情報リテラシーについて、情報と知識、そして知恵による「知の三角形」の安定を図ることの重要性を指摘した文章である。著者は、与えられた情報（I）をうのみにしてしまうリスクについて指摘し、情報の真偽や価値を理解する知識量（K）および最終的な判断力（W）を増強することが重要だとしている。

問1では、「情報の洪水のなかで溺れてしまう」リスクやその原因に関する著者の説明を読み取り、正確に理解しているかを評価する。問2では、著者の「知の三角形」の考えを踏まえつつ、情報リテラシーおよび異文化理解において、情報に関する知識及び考察・判断力の重要性について、自分の考えを、適切な日本語で表現できるか、をみる。